

彩都バイオヒルズセンターに

研究施設を開設

アンチキアンサー ジャパン(社長八木 滋雄氏)は3日、彩都バイオヒルズセンター(大阪府茨城市内に開設した研究施設のオープンセレモニーと内覧会を開催した。同社は、米カリフォルニア州サンディエゴで抗癌剤や診断薬の研究・開発・販売を業務とするバイオベンチャーのアンチキアンサー(社長ロバート・ホフマン氏)の日本法人で、昨年11月に設立された。今年3月から、彩都内に事務所と研究施設の開設工事を開始し、3日オープンとなった。研究施設には、最先端のバイオイメージング装置が整備され、独自技術の緑色蛍光蛋白(GFP)や赤色蛍光蛋白(RFP)を用いて、小動物による癌の生体内イメージングの研究・開発を推進することとしている。



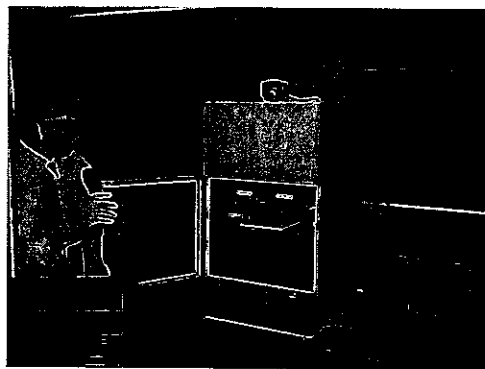
あいさつするホフマン社長(左)、八木日本法人社長

アンチキアンサー ジャパンでは、ホフマン社長が「日本での共同研究を行ってきた。本日は、その20年間で最良の日である」とあいさつした。

続いて、安部令彦慶應義塾大学名誉教授と山西弘一医薬基盤研究所理事長が祝辞を述べた。その中で山西氏は「基盤研の隣に癌の研究所がオープンしたのは非常に喜ばしい。彩都内の研

アンチキアンサー ジャパン

究所同士がコミュニケーションを図るべき」とBioHills Clubの懇談会にぜひ加わっていただきた」と要望。さらに、「今更スを開発した。90年代半月から第2期知的クラスターには、マウスにGFP遺伝



モレキュラーイメージングラボ

創成事業として、大阪彩都地区の基幹研究がスタートするが、そのテーマの一つに癌治療が挙げられている。彩都の各研究機関と協力して成果を上げてほしい」と訴えかけた。

一方、八木社長は、「1980年代後半にヌードマウスにヒト癌を移植し、その癌が転移を起こすメタスタシス(癌転移マウス)を開発した。90年代半月から第2期知的クラスターには、マウスにGFP遺

バイオメリユーと

尿検査製品で販売契約

シスメックスは、細菌検査のリーディングカンパニーであるバイオメリユー(本社フランス)と、尿検査製品に関する販売・サービス契約を締結した。

バイオメリユーが、シスメックスの代理店として、海

日本法人も統合へ

スミス・アンド・ネフユー

医療機器を扱うスミス・アンド・ネフユーは、6月にフランスに拠点をもち、統合時期は未定だが、製品の拡充を扱うフランス・オーソペ

不整脈治療剤「タンボコール錠」

発作性心房細動・粗動で追加承認

エーザイ

エーザイは、不整脈治療剤「タンボコール」(一般名:酢酸フレカイニド)の適応に、頻脈性不整脈における発作性心房細動・粗動の効能・効果、用法・用量の追加に関する承認を国内で取得した。

「タンボコール錠」は、日本では1991年6月に頻脈性不整脈(心室性)を効能・効果として承認されており、今回の効能・効果追加により、1剤で心室性から心房性の頻脈性不整脈に対応できることになった。

強化するとう。傘下に収められたフランス社の世界売上高は約360億円という、両社の整形外科領域の事業を合わせることで、同領域のシェアは12%、世界第4位。

ノバルティス

スイス・ノバルティスは、米国で暫定承認を受けていたAⅡ受容体拮抗剤(ARB)「バ

ARBとCa拮抗剤の配合剤

「エクスフォージ」が米で承認

直接阻害することで血圧を下げる新しい降圧剤「SP P100」もPⅢ(米発売済み、欧承認申請中)にあ

「アクトス」特許侵害訴訟

米の控訴審で武田が勝訴

武田薬品および武田ファーマシューティカルズ・ノ

ギンテフノンズニム

化した検査機「Vision」用